

熱射病・日射病にご注意

暑い夏、海や山に涼を求めて出かける方も多いでしょう。

この時期、気をつけることに、熱射病と日射病があります。

熱射病は、高温でしかも、風通しの悪い場所で、作業をした運動を続けるとおこります。

また日射病は、強い日差しに長い時間あたるとおこります。

いずれも体温調節機能がおかされるのですが、その原因のひとつは、からだの熱の発散が妨げられ、熱がたまること(うつ熱)、もうひとつは、からだの水分が少なくなること(脱水)です。

このために体温が高くなり、倦怠感、脱力感にはじまり、意識がなくなったり、けいれんをおこし、放っておくと死亡することもあります。

※こんなことに注意!

- ①炎天下の作業や運動をする場合、汗をかいたら、こまめにお茶など水分をしっかりとる。
- ②外出の時は、帽子をかぶったり日傘をさす。
- ③体温が上がりやすい乳幼児は、



外出時、必ず麦茶を用意し水分を補う。またわずかな時間でも、車の中には、子どもだけにしてはいけない。

※応急手当!

- ①熱を放散させることと、水分を与えることがポイントです。
- ①風通しのよい涼しい所へねかせる。
- ②頭を高くし、衣類をゆるめるか、脱がせる。
- ③冷やす。
ぬれた冷たいタオルで体を拭く。水をかける。ぬらしたシートなどで体を包む。扇風機で風をあてる。
- ④水をのませる。
- ※こんなときは救急車!
①意識がはっきりしない時
- ②体温が高く、冷やしても下がらない時
- ③水分をうけつけない時

ながと文化財めぐり

吉川氏の踊がルーツ

▷ 6 ◁

湯本南条踊



無形民俗文化財

昭和43・4・5 (県指定)

毎年九月十日、赤崎神社の秋祭に、楽踊とともにこの踊が奉納される。湯本南条踊の由来には、つぎのような伝えがある。

戦国時代の天正七年(一五七九)、吉川元春が南条元統の羽衣石城(鳥取県)を攻めた。吉川軍は踊り子に変装して城に侵入、すきをついて南条軍を敗ったという。

この故事にちなんで、南条踊は吉川氏の吉例踊として岩国に伝えられた。のち、来島隆政がこの踊を俵山村に伝えた。

延宝二年(一六七四)、湯本村に引き継がれ、湯本南条踊として赤崎神社への奉納がはじまった。

南条踊は、風流系の民俗芸能として、当時の姿を伝えている。

表紙の説明

8月3日、上川西2区子ども会は藍染めにチャレンジ。

5月に同地区内の菖蒲園に移植した藍を早朝5時から近くの年配者が1番刈り、ちぎった葉をミキサーにかけ、布越しした汁に持ち寄ったTシャツやくつ下などを次々と染めていきます。

コバルトブルーに染め上がったTシャツなどが、夏の陽射しを浴びて一層鮮やかな色合いをみせていました。子どもと保護者と地域の人と一緒に染める貴重な夏休みの体験です。

今月の納税
市県民税第2期
納付期限 6月2日

市政の情報は、テレホンサービス「市政だより」でも行っています。

☎ 6030

市の人口(8月1日現在)

面積	152・38km ²
人口	25,309人
男	11,751人
女	13,558人
世帯数	8,858世帯
()内は前月比	